

京丹後市こども計画策定に向けた 子どもからの意見聴取結果報告

速報版

令和8年3月

京丹後市

1 はじめに

本資料は、京丹後市子ども計画の策定に向けて実施した子どもからの意見聴取の取組の結果を取りまとめたものである。子どもの生活実感に根ざした課題認識、地域に対する評価、居場所やまちづくりへの参加の在り方に関するニーズを多面的に把握し、今後の計画素案の検討に活用することを目的とする。

2 意見聴取の取組概要

手法	対象・規模	主な内容	計画策定上の位置づけ
アンケート調査	小学生 458 人 中学生 966 人 高校生 811 人	校種別の傾向、悩みや相談、居場所、意見表明の経験などを幅広く把握	全体傾向の量的把握
出前講座	小学校 5 校 211 人 中学校 6 校 359 人 高校 1 校 15 人	背景や理由、具体的な改善提案、対話を通じた気づきを把握	生活実感や提案内容の質的把握
ヒアリング (今後実施予定)	障害児や医療的ケア児とその保護者、子育て支援団体等	個別性の高い課題や支援ニーズ、制度・運用面での配慮事項を把握	アンケートや出前講座で拾いにくい声の把握



3 アンケート調査の概要

アンケート調査は、子どもの声を広く把握し、今後の施策検討に反映することを目的として実施。分析では校種別の傾向を基本とし、地域別の特徴も確認した。

設問構成

アンケートは小・中・高で基本構成をそろえ、「あなたのこと」「こどもの権利」「悩みや困りごと・相談相手」「こどもの居場所」「こどもまんなかのまち」の5項目で設計した。小・中学生票は全 21 問、高校生票は全 19 問であり、校種に応じて表現や選択肢を調整している。

回答者の属性

区分	回答者数	男	女	その他
小学生	458	234	213	11
中学生	966	466	483	17
高校生	811	409	390	12
合計	2,235	1,109	1,086	40

地域	小学生	中学生	高校生	合計
峰山町	139	225	211	575
網野町	122	211	135	468
大宮町	30	206	133	369
久美浜町	92	171	122	385
弥栄町	58	87	59	204
丹後町	17	66	72	155
京丹後市外	—	—	79	79
合計	458	966	811	2,235

※高校(学校別)

学校名	回答者数
峰山高校	567
清新高校	95
丹後緑風高校久美浜学舎	84
丹後緑風高校網野学舎	65
合計	811

4 アンケート結果の概要

4-1 全体結果のポイント(速報)



主な傾向

- ▶ 権利認知は学齢とともに高まる傾向がみられるが、「よく知っている」は全校種で13%以下にとどまった。
- ▶ 中学生10.3%、高校生9.7%で、1割程度から1割強の層が相談先を持たない状況にある。
- ▶ 第3の居場所の充足率は小77.7%、中63.2%、高55.1%と、学齢が上がるほど低下した。
- ▶ 意見表明の経験は小18.5%、中18.3%、高15.7%で、全校種で2割未満にとどまった。
- ▶ 「こどもまんなかのまちと聞いてイメージすること」では、中学生・高校生では、大人が子どもの意見を聞いて行動してくれるが最も多かった。小学生では「安心できる地域」が最も多かった。
- ▶ 意見を伝えやすい方法としては、「スマホやタブレットで伝える」が小71.2%、中78.5%、高78.3%で、全校種で高い支持がみられた。

4-2 こどもの権利の認知状況

設問

【小中生:問4 / 高校生:問5】 単一回答

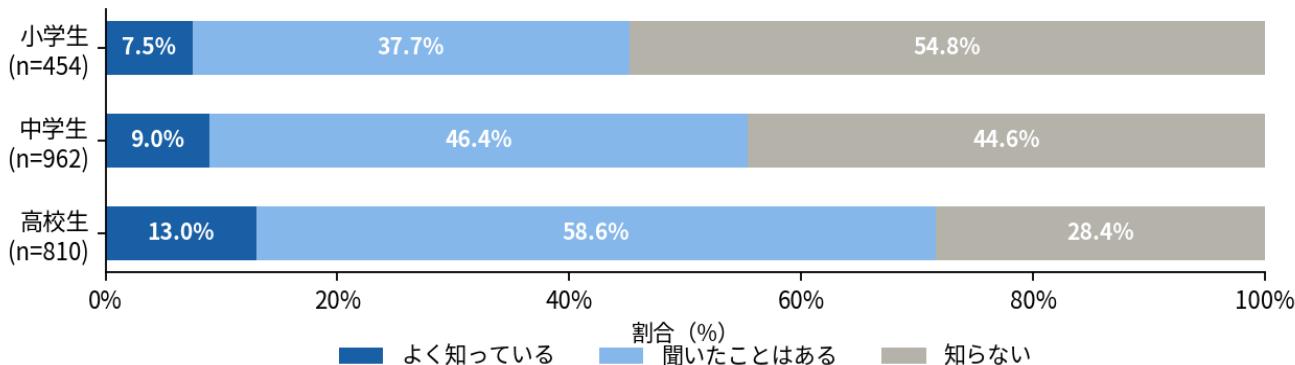
こどもには大切な「こどもの権利」があります。あなたは「こどもの権利」を知っていますか。

【選択肢】

- よく知っている
- 聞いたことはある
- 知らない

こどもの権利の認知状況をみると、学齢が上がるほど認知は高まる傾向がみられた。小学生では「知らない」が最も多く、中学生・高校生では「聞いたことはある」が中心であった。一方で、「よく知っている」は各校種とも13%以下にとどまっており、権利を日常生活の中で実感できるような理解促進が必要である。

図1 こどもの権利の認知状況（校種比較）



設問

【小中生:問5 / 高校生:問6】 複数回答

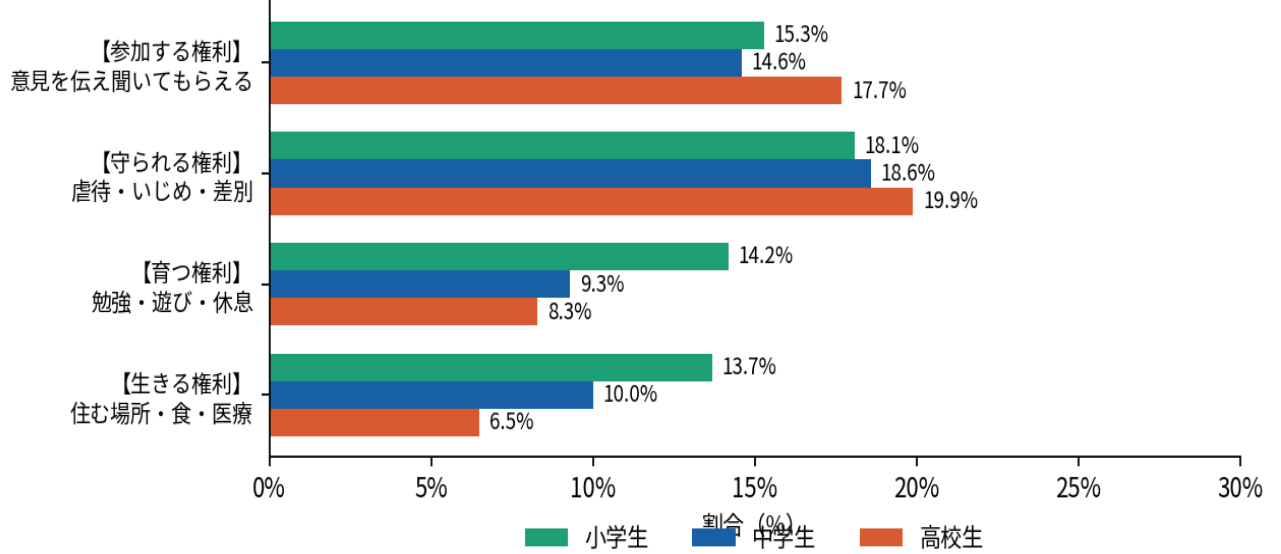
「こどもの権利」は大きく分けると4つあります。あなたやあなたのまわりで、守られていないと思う「こどもの権利」を選んでください。

【選択肢】

- 【生きる権利】住む場所や食べ物があり、病気やけがをしたら病院などでみてもらえる
- 【育つ権利】勉強をしたり、遊んだり休んだりして、元気に成長できること
- 【守られる権利】虐待やいじめ、差別などから守られること
- 【参加する権利】自分の気持ちや意見を伝え、大人に聞いてもらえること
- 守られていないと感じる権利はない
- よくわからない

「守られていないと感じる権利はない」と答えた層が各校種で最も多い一方で、「守られる権利」や「参加する権利」が守られていないと感じる層も一定数存在する。特に中高生では、「守られる権利」に加え、「参加する権利」についても相対的に高い割合がみられており、いじめ対応や意見聴取の機会など、具体的な場面と結びつけた施策を考えていくことが重要である。

図2 守られていないと感じる権利（複数回答・校種比較）



【分析】

権利を「知らない」と答えた小学生が 54.8%に上るにもかかわらず、「守られる権利」を侵害されていると感じている小学生が 18.1%存在する。権利の名称を知らなくても、生活の中で侵害を体感している子どもがいることを示しており、権利教育と被害の早期把握・相談体制の整備は並行して進める必要がある。

4-3 悩みや困りごとの内容

設問

【小中生:問7 / 高校生:問8】 複数回答

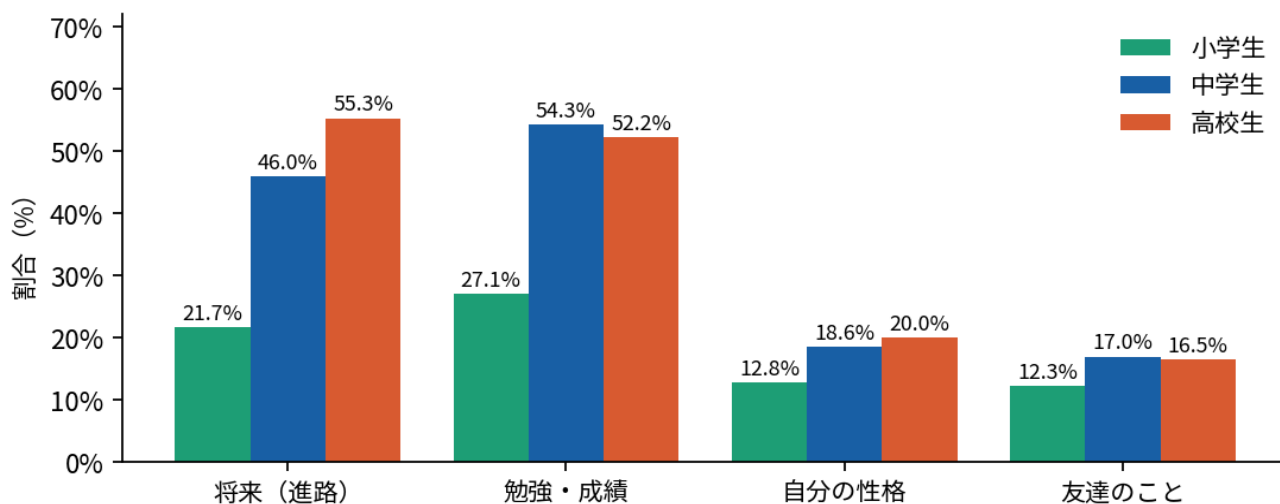
あなたは悩んでいることや困っていることがありますか。

【選択肢】

- 勉強や成績のこと
- 友達のこと
- 将来(進路)のこと
- 家族のこと
- 自分の性格のこと
- 自分の体のこと
- いじめのこと
- 大人からの暴力(虐待)のこと
- お金のこと
- インターネット、SNS のこと
- 悩みはない

悩みや困りごとの内容には校種差がみられた。小学生では「悩みはない」が 48.7%と比較的多い一方、中学生では「勉強・成績」が 54.3%、「将来・進路」が 45.9%、高校生では「将来・進路」が 55.3%、「勉強・成績」が 52.2%と高かった。自己理解や人間関係に関する悩みも中高生で一定程度みられ、学齢に応じて悩みの内容が変化していることがうかがえる。

図3 主な悩みの校種比較（上位4項目）



設問

【小中生:問8 / 高校生:問9】複数回答

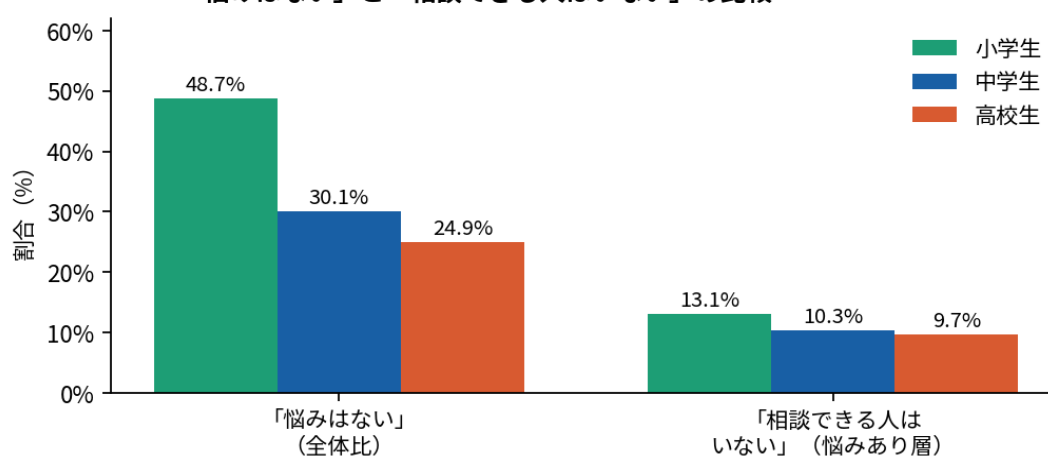
その悩みを相談できる人は誰ですか。

※分母は「悩みはない」以外を1つ以上選んだ人(小 237・中 661・高 596)

【選択肢】

- 家族
- 友達
- 先生
- 近所(地域)の人
- 相談できる人はいない

図4 「悩みはない」と「相談できる人はいない」の比較



【注目点】

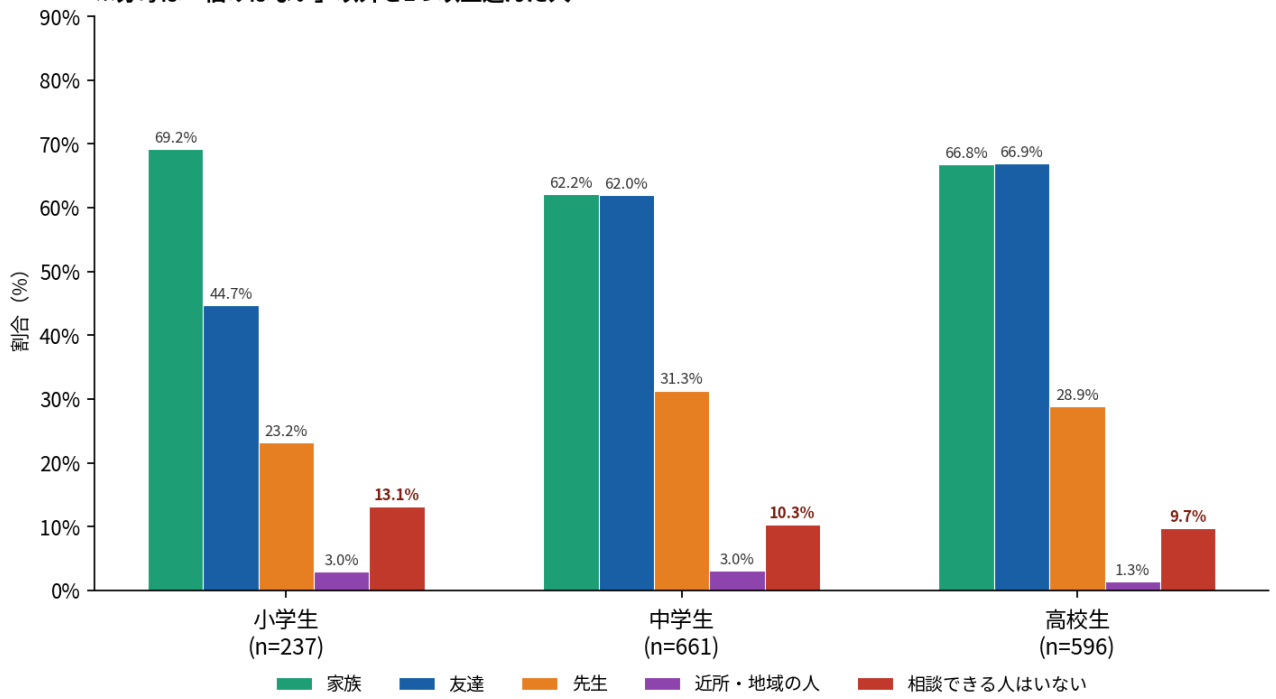
高校生は「悩みはない」が24.9%と全校種で最も低い一方、「相談できる人はいない」も9.7%(約56人)存在する。悩みが多様化・深刻化する高校期に相談先がない層への支援が特に重要。

4-4 相談相手の状況

どの校種でも、悩みを相談する相手は家族と友達が中心であった。小学生では家族が突出して高く、中学生では家族と友達がほぼ同程度、高校生では友達が家族をやや上回った。先生への相談は中学生で相対的に高かった。

一方、「相談できる人はいない」は小13.1%・中10.3%・高9.7%であり、校種を通じて1割程度の層が孤立した状況に置かれていることがうかがえる。校種ごとの悩みの特徴を踏まえながら、相談しやすい相手や場につなげる取組を考えていく必要がある。

図5 悩みを相談できる相手（複数回答・校種比較）
※分母は「悩みはない」以外を1つ以上選んだ人



4-5 家・学校以外の居場所に関する状況

設問

【小中生:問 13 / 高校生:問 11】 単一回答

あなたは家(いつも寝起きしている場所)や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がほしいですか。

【選択肢】

- はい
- いいえ
- よくわからない

設問

【小中生:問 14 / 高校生:問 12】 単一回答 ※「はい」と答えた人が対象

あなたは家や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がありますか。

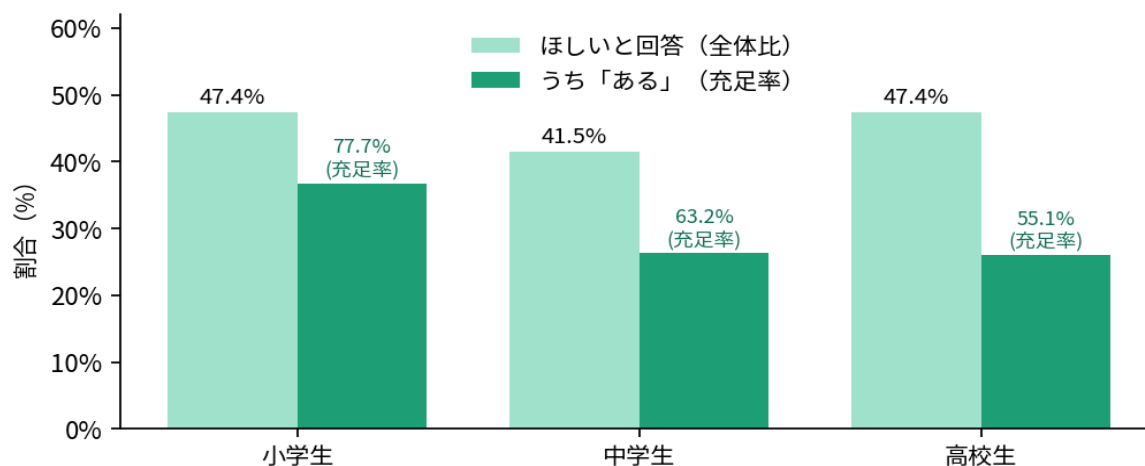
【選択肢】

- ある
- ない
- よくわからない

家や学校以外に「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がほしいと答えた割合は、小 47.4%・中 41.5%・高 47.4%であった。

一方で、そのような場所が「ある」と答えた割合は、居場所を「ほしい」と答えた人のうち、小 77.7%・中 63.2%・高 55.1%であり、学齢が上がるほど低下している。年齢が上がるにつれて、家や学校以外の居場所に対するニーズは引き続きあるものの、実際にそれを満たす場を持っている割合は下がる傾向がみられた。

図6 居場所ニーズの状況 (ほしい率と充足率)



4-6 長期休業中の過ごし場所(小・中学生)

設問

【小中生のみ:問10】複数回答(特にあてはまるもの3つまで)

あなたは夏休みなどの長いお休みのとき、どこで過ごすことが多いですか。

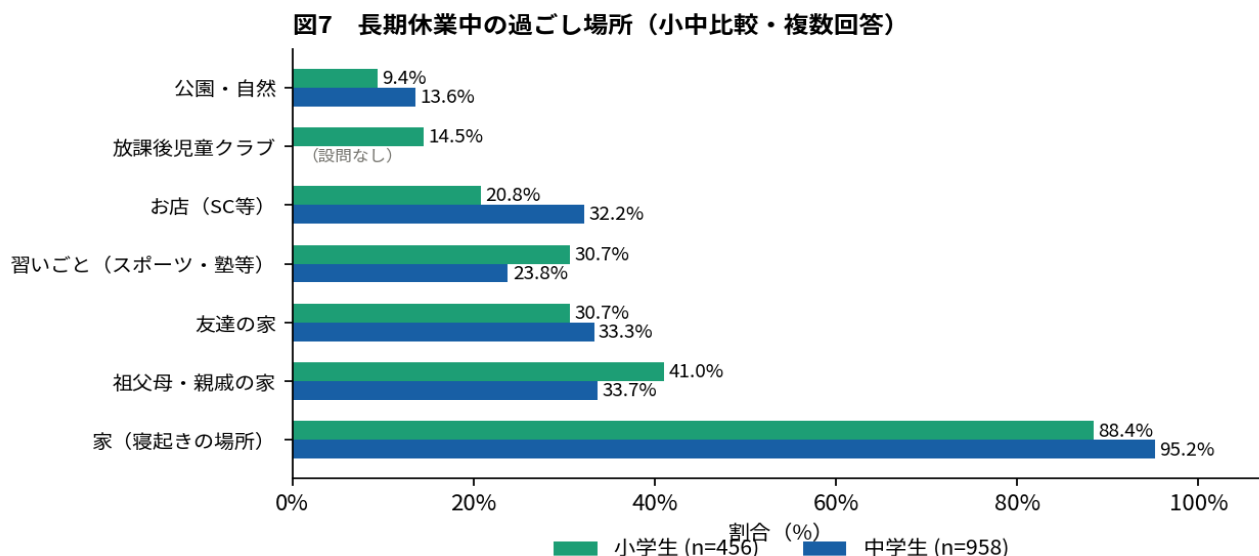
※高校生はこの設問なし

【選択肢】

- 家(いつも寝起きしている場所)
- おじいちゃん・おばあちゃんの家、しんせきの家
- 友達の家
- 公園や自然の中で遊べる場所
- 放課後児童クラブ(放課後子ども教室)
- 習いごと(スポーツ、塾など)
- 図書館や地域の公民館
- お店(ショッピングセンターなど)
- 地域の人が開いている居場所(遊び場、こども食堂など)

長期休業中の過ごし場所は、小中ともに「家」が最も多く、小 88.4%・中 95.2%であった。中学生になると「家」の割合がさらに高まり、放課後児童クラブは対象外となる。祖父母・親戚の家は小学生で相対的に多く、友達の家やお店は中学生で割合がやや高くなっている。

このことから、長期休業中は自宅中心の過ごし方が基本となっていることがうかがえる。中学生以降の受け皿や、家以外に過ごせる場のあり方についても検討していくことが必要である。



【分析】

小中ともに長期休業の大半を「家」で過ごし、問11・12(一人での頻度・さみしさ)と合わせると、在宅中の孤立リスクが示唆される。放課後児童クラブが対象外となる中学生以降の受け皿整備が特に重要。なお「地域の人が開いている居場所(こども食堂等)」の利用は小 3.3%・中 1.6%と低く、量的に不足、認知・アクセスの課題がある可能性がある。

4-7 求める居場所のあり方

設問

【小学生：問 16 / 高校生：問 14】 複数回答（特にあてはまるもの3つまで） ※「はい」と答えた人が対象

あなたが「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所はどんな場所ですか。

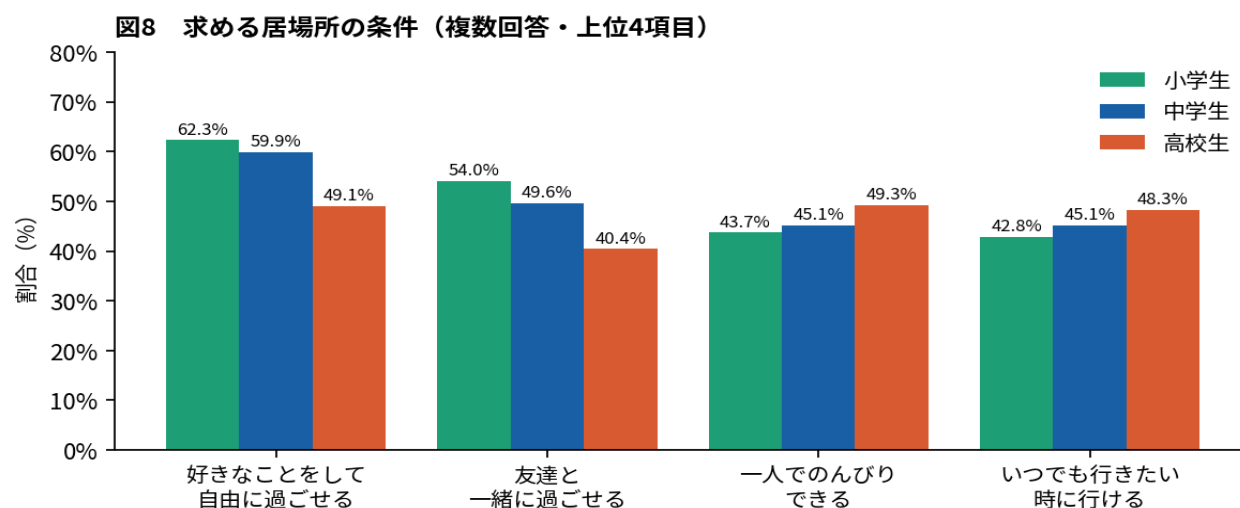
【選択肢】

- いつでも行きたいときに行ける
- 一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる
- 友達と一緒にすごせる
- ありのままでいられる、自分を否定されない
- 好きなことをして、自由にすごせる
- 自分の意見や希望を受け入れてもらえる
- 新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる
- 悩みごとの相談にのってもらったり、一緒に遊んでくれる大人がいる

求める居場所の条件としては、「好きなことをして自由に過ごせる」「友達と一緒に過ごせる」「一人でのんびりできる」「いつでも行きたいときに行ける」が共通して上位に挙がった。

高校生では、「一人でのんびりできる」が「好きなことをして自由に過ごせる」をわずかに上回っており、他の校種にはない特徴がみられる。友達と過ごせる場だけでなく、一人でも落ち着いて過ごせる場、自分のペースで利用できる場へのニーズもあることがうかがえる。

このため、居場所づくりに当たっては、交流型の場とあわせて、干渉されすぎず自律的に使える場の視点も重要である。

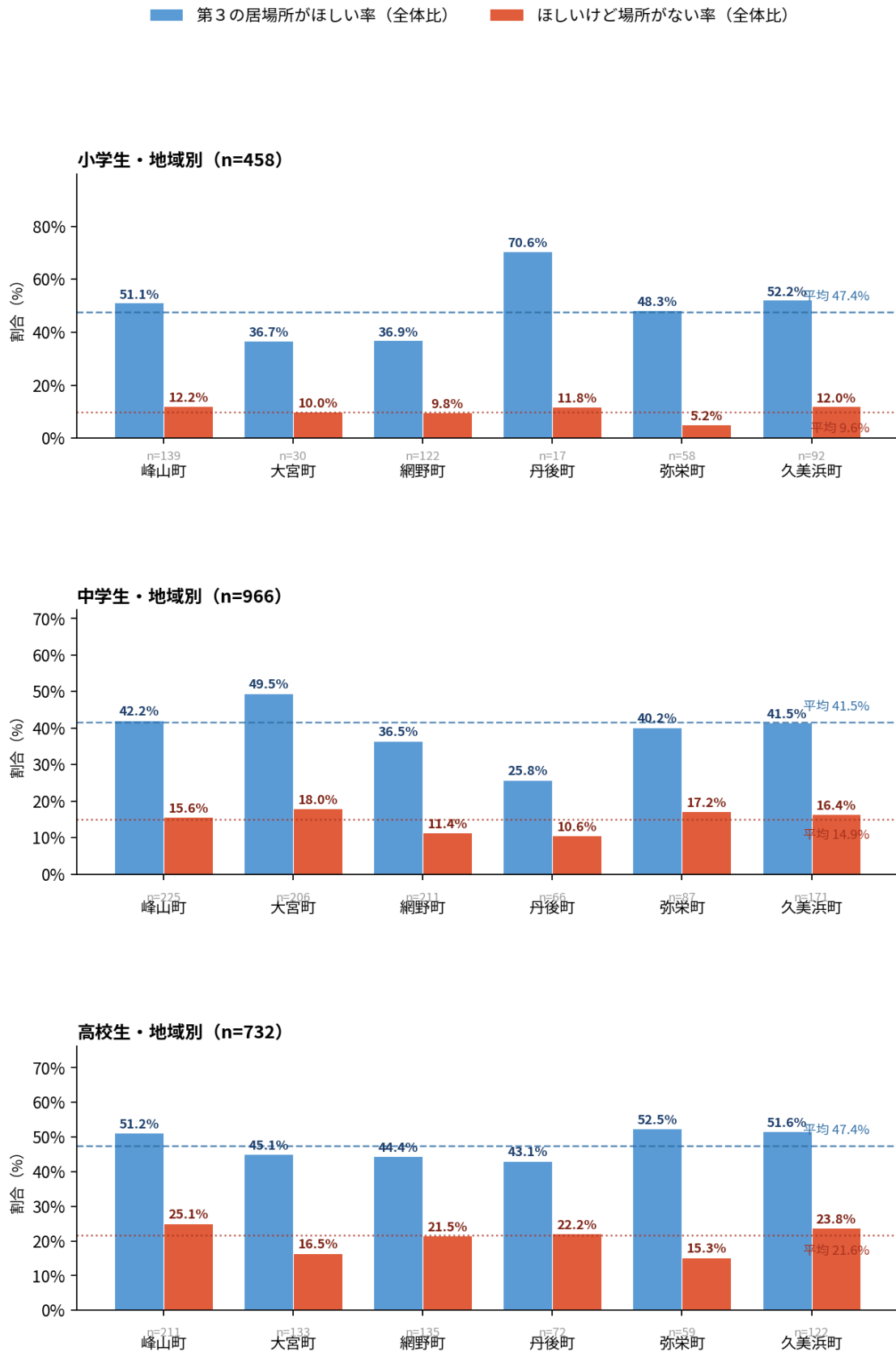


【分析】

高校生では「一人でのんびり」が最上位となる点は他の校種にはない特徴。管理・プログラム志向の居場所よりも、自律的に使える空間の整備が求められている。

4-8 地域別にみた居場所ニーズの特徴

図9 第3の居場所に関する地域別比較



地域別にみると、第3の居場所を「ほしい」と感じる割合には一定の差がみられる。小学生では丹後町、中学生では大宮町、高校生では弥栄町・久美浜町・峰山町で比較的高い傾向がみられた。

一方で、「ほしいけれど場所がない」割合は、小学生では1割前後にとどまるのに対し、中学生では1割台半ば、高校生では2割前後まで高まっており、学齢が上がるにつれて、必要としながら十分に確保できていない層が増えていることがうかがえる。

このため、第3の居場所については、地域差にも留意しつつ、特に中高生年代のニーズに応じた居場所の充実を図っていくことが重要である。

【まとめ】

居場所ニーズは全体的に高水準(40～70%台)であることから、一律の底上げと地域特性に応じた対応の両面が必要。

4-9 こどもが考える「こどもまんなかのまち」のイメージ

設問

【小中生:問18 / 高校生:問16】複数回答(特にあてはまるもの3つまで)

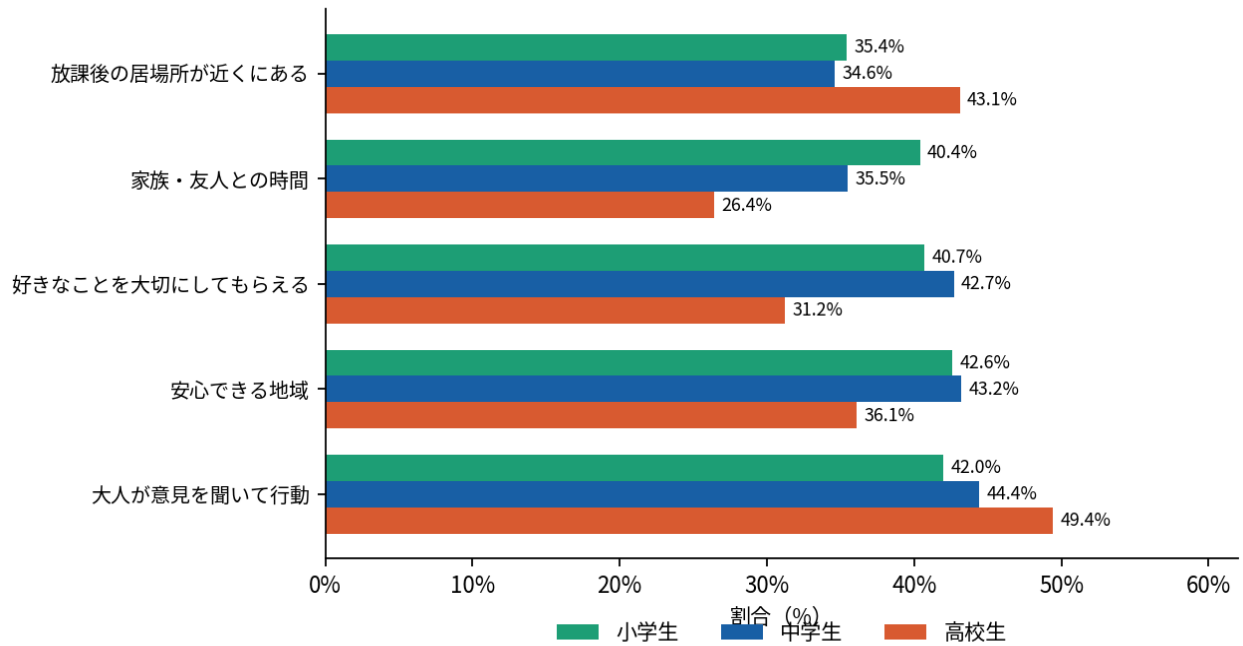
京丹後市では、こどもたちみんなが幸せに暮らせる「こどもまんなかのまち」を目指しています。あなたは「こどもまんなかのまち」と聞いてどんなことをイメージしますか。

【選択肢】

- 大人がこどもや若者の意見をしっかり聞いて、まちをよくするために行動してくれる
- 一人ひとりの好きなことや得意なことをまわりから大切に考えてもらえる
- 放課後や休みの日にこどもや若者が安心して楽しく過ごせる場所が近くにある
- 家族や友達、親しい人と過ごす時間がたくさんある
- こどもが近所の人や地域の人と顔見知りで安心して暮らすことができる
- 病気やケガをしても、近くに病院や治療できる場所がある
- こどもが危険な事件・事故にあわない(あいにくい)安心できる地域

「こどもまんなかのまち」のイメージは校種によって重点が異なる。小学生では「危険な事件・事故にあわない安心できる地域」が最多であるのに対し、中学生・高校生では「大人がこどもや若者の意見をしっかり聞いて、まちをよくするために行動してくれる」が最上位となっている。学齢が上がるにつれて、安全・安心に加え、参加や意見反映への期待が高まっていることがうかがえる。

図 10 「こどもまんなかのまち」のイメージ（複数回答・上位5項目）



4-10 意見表明の経験と伝えやすい方法

設問

【小中生:問 20 / 高校生:問 18】 単一回答

あなたは京丹後市に対する自分の考えや意見を市役所の人や大人(先生、地域の人など)に伝えたことはありますか。

【選択肢】

- ある
- ない

設問

【小中生:問 21 / 高校生:問 19】 複数回答

あなたはどんな方法であれば京丹後市のことについて、市役所や大人に自分の意見を伝えやすいと思いますか。

【選択肢】

- スマホやタブレットでアンケートに答える
- 学校を通して伝える(先生や授業など)
- イベントなど意見を伝える場をつくる
- 直接、市役所の人に来て伝える
- 市役所の会議に参加する

市や大人に意見を伝えたことがある割合は、小 18.5%・中 18.3%・高 15.7%と、いずれの校種でも 2 割未満にとどまっており、子どもが日常的に意見を表明する機会は十分とはいえない状況がうかがえる。

一方で、意見を伝えやすい方法としては、「スマホやタブレットでアンケートに答える」が全校種で最も多く、小 71.2%・中 78.5%・高 78.3%であった。学校を通して伝える方法も一定の支持があり、既存の学校生活の中で参加しやすい仕組みを設けることの有効性が示唆される。

また、高校生出前講座の感想では、「自分の意見を反映させていただける機会があって良かった」「今までにあまりなかった意見を伝える機会が、とてもよい経験になった」「他の人の意見も聞けて、自分の考えの幅が広がった」といった受け止めがみられた。アンケート上は意見表明経験が多いとはいえない一方で、機会が設けられれば、前向きに参加する層がいることもうかがえる。今後は、オンラインで気軽に意見を出せる方法と、学校やワークショップなど対話の場を組み合わせながら、意見を出しやすい環境を継続的につくっていくことが重要である。

図 9-1 意見を伝えた経験「ある」割合

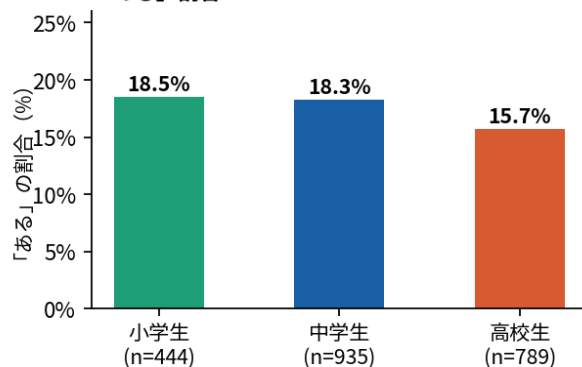
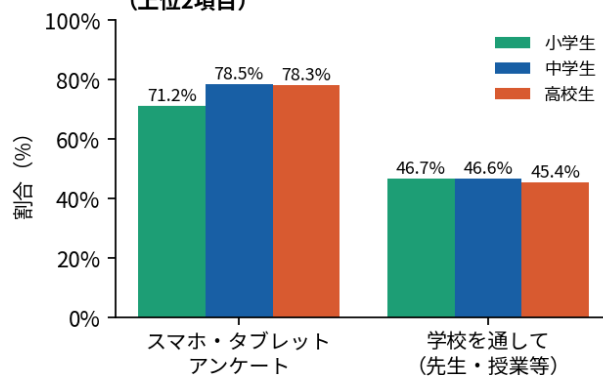


図 9-2 伝えやすい方法(上位2項目)



【分析】

スマホ・タブレットによるアンケートは全校種で70%超の支持。本調査の形式そのものが最も受け入れられやすい参加手段であることを示しており、継続的なオンライン意見聴取の仕組み構築を検討すべき。

4-11 自由記述から見える主な声

設問

【小中生:問 19 / 高校生:問 17】 自由記述

京丹後市について、「もっとこうなったらいいな」「もっとこうしてほしい」と思うことがあれば教えてください。

自由記述では、遊び場や居場所の充実、商業施設・飲食店、交通利便性の向上に関する声が多くみられた。一方で、「いじめや差別を受けた」「大人に意見を聞いてもらえない」「先生の対応に不満」といった、権利や支援に関わる重要な声も確認された。

また、「こどもの意見を聞く場を増やしてほしい」「空き家を交流施設に活用してはどうか」「子どもサミットがほしい」といった提案もみられた。これらは単なる要望としてだけでなく、子ども・若者が地域やまちづくりへの参加を求めていることを示す声として受け止めることができる。

計画策定、施策検討に当たっては、遊び場や交通などの生活環境に関する要望とあわせて、権利擁護や意見表明の仕組みに関する声も丁寧に受け止めていく必要がある。

カテゴリ	主な声
遊び場・居場所	「遊ぶ場所が少ない」「映画館がほしい」「室内で遊べる場所がない」
交通・移動	「バスの本数が少ない」「自転車で走れる道がない」「商業施設が遠い」
権利・安全	「いじめや差別を受けた」「大人に意見を聞いてもらえない」「先生の対応に不満」
参加・提案	「こどもの意見を聞く場を増やして」「空き家を交流施設に」「こどもサミットが開催したい」

【重点的に受け止めるべき声】

いじめ・虐待・差別に関する声、学校や大人への不信感、意見を聞いてもらえないという訴えは、計画の権利擁護施策の優先度を検討する上で特に重視すべき内容である。

5 出前講座の概要

出前講座は、こども計画の策定に当たり、子どもの意見を計画に反映するとともに、「自分の声がまちづくりに活かされる」体験の機会とすることを目的として実施した。

出前講座では、アンケート調査では把握しにくい「なぜそう感じるのか」という背景や、生活の中での困りごと、地域のよいところ、具体的な改善提案を把握することができた。あわせて、意見を出し合う過程そのものに対する受け止めも確認でき、子どもの参加のあり方を考えるうえでも有意義な機会となった。

こども計画の策定に向けた出前講座 実施一覧

No.	種別	学校名	対象学年	実施日	時間	参加人数
1	小学校	しんざん小学校	6年	7月3日	10:45～11:30	33名
2	小学校	高龍小学校	6年	9月8日	8:40～10:15	30名
3	小学校	弥栄小学校	6年	12月17日	11:35～12:20	29名
4	小学校	大宮第一小学校	6年	11月20日	8:40～10:15	70名
5	小学校	丹後小学校	5年	9月25日	10:50～11:25	25名
6	小学校	丹後小学校	6年	9月25日	11:40～12:25	24名
7	中学校	網野中学校	3年	10月24日	9:50～12:40	86名
8	中学校	弥栄中学校	3年	10月8日	9:55～10:45	32名
9	中学校	久美浜中学校	3年	10月9日	9:50～11:40	53名
10	中学校	峰山中学校	3年	10月7日	10:40～12:40	80名
11	中学校	丹後中学校	1年	10月7日	10:40～11:25	27名
12	中学校	大宮中学校	3年	11月5日	9:55～12:45	81名
13	高校	峰山高等学校	—	10月17日	15:40～16:40	15名
合 計				小211名・中359名・高15名計585名		

校種	主な意見傾向	特徴として捉えられること
小学校	遊び場、公園、室内で遊べる場所、映画館や買い物場所など、身近な生活環境に関する声が多い。歩道や安全に関する声もみられる。	要望が生活実感に近く、こどもにとってわかりやすい形で表現されている。楽しさや便利さに加え、安心して過ごせる環境への関心もみられる。
中学校	自然や景観、食、地域の人へのあたたかさなど、京丹後市のよさを評価する声がある一方、買い物や娯楽の不足、交通の不便さに関する指摘も多い。	地域の魅力と課題を対比しながら捉える傾向があり、「よいところはあるが、不便さもある」という見方が特徴的である。
高校	地域の優しさや自然を評価する声に加え、交通、居場所、意見表明の場づくりなど、仕組みや制度に関わる提案がみられる。	単なる要望にとどまらず、「どうすれば実現できるか」を意識した提案が含まれる。また、出前講座そのものを、まちを考え意見を伝える学びや参加の機会として前向きに受け止めている。

近所の人親切 地域で声をかけてもらえる 静かで過ごしやすい
 海や山が近い 地域のつながりがある 海がきれい
 みんなが仲が良い 自然が豊か 安心して暮らせる
 空気がきれい 自然が豊か 景色がきれい
 山が近い 地域の人やさしい 山が近い
 人があたたかい あいさつが多い 見守りがある
 祭りや地域行事がある のどかで落ち着く 星空がきれい
 安全な感じがする 食べ物がおいしい ゆったりしている
 ふるさとらしさがある 自然の中で遊べる 地域の雰囲気がい

出前講座で寄せられた「京丹後市の良いところ」

道がせまい 街灯が少なくて危ない 公園に草が多い
 若者が遊べる場所が少ない 映画館や商業施設が少ない
 暇つぶしできる場所が少ない 道路や歩道の整備が少ない
 不便を感じる **遊べる場所が少ない** スポーツ施設が少ない
 交通費がかかる
 自転車移動しにくい **交通が不便** コンビニがない
 遠くまで行かないと店がない もっとにぎわいがほしい
店や買い物する場所が少ない
 安全面が心配 **公園が少ない** 熊や害獣が出る
 行く場所が少ない 子どもの居場所が少ない
 雨の日に過ごす場がない **電車やバスが不便** 集まれる場所が少ない
 駅やバス停が使いにくい 外で遊びにくい 人が減っている感じがする さびしい雰囲気がある

出前講座で寄せられた「京丹後市の悪いところ」

子どもバザール 駄菓子屋 子どもの意見を聞く場をつくる
 街灯を増やす 若者が集まれる場所をつくる 安心して過ごせる場所を増やす
 映画館や娯楽施設をつくる **安全なまちにす** ウォータースライダー
 自然を活かした遊び場をつくる 使わない施設を遊び場に
 遊具のある公園を増やす **交通を便利にする** 買い物しやすくする
公園や遊び場を充実する
 みんなが交流できる場をつくる **店や商業施設を増やす** 空き家を活用する
 勉強や相談ができる場所をつくる イベントを増やす
 子どもだけでも行ける場所を増やす **子どもの居場所をつくる** 道路歩道を整備する
 地域の人と **雨の日でも遊べる場所を増やす**
 つながれる機会を増やす にぎわいをつくる 若い人が残りたくなるまちにする ライブ会場をつくる

出前講座で寄せられた「まちより良くするための提案」

6 アンケートと出前講座を通じて見えたこと

テーマ	アンケートから見えたこと	出前講座から見えたこと	方向性
居場所	高校生ほど居場所の充足率が低い。	過ごし方の違いを含む具体的なニーズがみられた。	年齢に応じた多様な居場所づくり
交通・移動	バスや移動のしにくさに関する声がある。	通学・放課後の移動の不便さが具体的に語られた。	移動しやすさの視点からの横断的検討
安全・安心	安全・安心に関わる項目が上位に入る。	街灯、歩道、防犯、相談しやすさへの関心がみられた。	地域環境と相談支援体制の充実
意見表明	経験は各校種で2割未満。	参加の機会を前向きに受け止める声のみられた。	継続的な意見聴取と参加機会の確保
地域の強み	自然や人とのつながりを肯定的に捉える声がある。	地域への関心や将来的な関わりへの思いがみられた。	地域資源を活かした施策展開

7 計画策定に向けた主な示唆

■ こどもの権利を日常で実感できる取組

こどもの権利の認知は学齢とともに高まる傾向がみられるものの、「よく知っている」は各校種とも13%以下にとどまっている。権利の周知にとどまらず、学校や地域の中で「意見を聞いてもらえる」「尊重される」「安心して過ごせる」といった経験につながる取組を重ねていくことが重要である。

■ 年代に応じた相談支援

悩みの内容は校種によって異なり、小学生では「悩みはない」が比較的多い一方、中学生では学業、高校生では進路に関する悩みが上位であった。また、悩みを持つ層の中には「相談できる人はいない」とする回答も一定数みられる。校種ごとの課題に応じて、相談しやすい相手や場につなぐ支援を整えていく必要がある。

■ 家・学校以外の第3の居場所づくり

家や学校以外の居場所を求める声は各校種でみられ、「小 77.7%・中 63.2%・高 55.1%と学齢が上がるほど低下している。求める居場所の条件としては、「自由に過ごせる」「友達と過ごせる」「一人でのんびりできる」「行きたいときに行ける」などが上位であり、年齢に応じた多様な居場所のあり方を考えていく必要がある。

■ 継続的な意見聴取と参加の仕組み

意見表明経験は全校種で2割未満にとどまる一方で、意見を伝えやすい方法としてはオンライン回答や学校を通じた方法が支持されている。また、高校生出前講座の感想からは、意見を伝える機会そのものを前向きに受け止める様子が見えてきた。アンケートや出前講座を単発で終わらせず、子ども・若者が考え、伝え、反映される実感を持てる継続的な仕組みとして育てていくことが重要である。



「こどもアンケート」回答のおねがい

< 回答は令和7年10月17日（金）まで >

京丹後市役所では、こどもやわかい人みんなが将来に夢や希望を持ちながら、しあわせに暮らせる「こどもまんなかのまち」をつくるために、いろいろな取組を考えています。

みなさんの意見は「こどもまんなかのまち」をつくるためにとても大切です。この「こどもアンケート」は、まちの人たちが、みなさんの思いをしっかり受けとめて、これからのまちをよりよくしていくためにつかいます。

答えにまちがいはありません。思ったことを自由に書いてください。

みなさんの声をたくさん聞かせてくださいね。

令和7年9月 京丹後市

アンケートの回答はこちらから

タブレットなどでQRコードを読み取って回答してください。



回答先URL（Googleフォーム）

<https://forms.gle/aBf8irirP1PWdTv48>

- ✔ 名前は書かなくてもよいです。
- ✔ 答えたくない質問には答えなくてもかまいません。
- ✔ おうちの人や先生に答えが見られることはありません。

【お問合せ】

京丹後市役所 こども部こども未来課

電話 0772-69-0340

✉ kodomomirai@city.kyotango.lg.jp



「こどもアンケート」回答のおねがい

< 回答は令和7年10月17日（金）まで >

京丹後市役所では、こどもや若い人みんなが将来に夢や希望を持ちながら、しあわせに暮らせる「こどもまんなかのまち」をつくるために、いろいろな取組を考えています。

みなさんの意見は「こどもまんなかのまち」をつくるためにとても大切です。この「こどもアンケート」は、まちの人たちが、みなさんの思いをしっかり受けとめて、これからのまちをよりよくしていくためにつかいます。

答えにまちがいはありません。思ったことを自由に書いてください。

まちの未来のために、ご協力よろしく申し上げます。

令和7年9月 京丹後市

- ✔ 名前は書かなくてもよいです。
- ✔ 答えたくない質問には答えなくてもかまいません。
- ✔ 保護者の方や先生に答えが見られることはありません。

アンケートの回答はこちらから

タブレットなどでQRコードを読み取って回答してください。



回答先URL（Googleフォーム）

<https://forms.gle/Ke3vVXun5TPwstJ9A>

【お問合せ】

京丹後市役所 こども部こども未来課

電話 0772-69-0340

✉ kodomomirai@city.kyotango.lg.jp



「こどもアンケート」回答のおねがい

< 回答締切日 令和7年10月17日（金） >

京丹後市では、こどもや若者が将来に希望を持ちながら、幸せに暮らすことができる“こどもまんなかのまち”をめざすための「京丹後市こども計画」をつくっています。この計画に、高校生のみなさんの考えや意見を反映させるためのアンケート調査を実施します。

皆さんの声は、こどもや若者だけでなく、大人を含めたすべての人が幸せに暮らすために、そしてまちの未来の発展にとっても、欠かせないものです。

まちの未来のために、ご協力よろしくお願いします。

令和7年9月 京丹後市

- ✔ 住所、氏名を記入する必要はありません。
- ✔ 答えたくない質問には答えなくても構いません。
- ✔ 回答いただいた内容は調査目的以外で使用することはありません。

アンケートの回答はこちらから

タブレットなどでQRコードを読み取って回答してください。



回答先URL（Googleフォーム）

<https://forms.gle/nMEpUGGBxFJUd4gY8>

【お問合せ】

京丹後市役所 こども部こども未来課

電話 0772-69-0340

✉ kodomomirai@city.kyotango.lg.jp

1. あなたのことについておたずねします。

設 問		選択肢
問1	あなたの所属している学校を選んでください。	<input type="checkbox"/> 峰山高校 <input type="checkbox"/> 清新高校 <input type="checkbox"/> 丹後緑風高校網野学舎 <input type="checkbox"/> 丹後緑風高校久美浜学舎
問2	あなたの学年を選んでください。	<input type="checkbox"/> 高校1年生 <input type="checkbox"/> 高校2年生 <input type="checkbox"/> 高校3年生 <input type="checkbox"/> 高校4年生
問3	あなたの住んでいる地域を選んでください。	<input type="checkbox"/> 峰山町 <input type="checkbox"/> 大宮町 <input type="checkbox"/> 網野町 <input type="checkbox"/> 弥栄町 <input type="checkbox"/> 丹後町 <input type="checkbox"/> 久美浜町 <input type="checkbox"/> 京丹後市外
問4	あなたの性別を選んでください。	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他（答えたくない等）

2. 「こどもの権利」についてあなたの考えをおたずねします。

設 問		選択肢
問5	こどもには大切な「こどもの権利」があります。 あなたは「こどもの権利」を知っていますか。	<input type="checkbox"/> よく知っている <input type="checkbox"/> 聞いたことはある <input type="checkbox"/> 知らない
問6	「こどもの権利」は大きく分けると4つあります。 あなたやあなたのまわりで、 守られていない と思う「こどもの権利」を選んでください。 ※あてはまるものすべてを選んでください	<input type="checkbox"/> 【生きる権利】 住む場所や食べ物があり、病気やけがをしたら病院などでみてもらえること <input type="checkbox"/> 【育つ権利】 勉強をしたり、遊んだり休んだりして、元気に成長できること <input type="checkbox"/> 【守られる権利】 虐待やいじめ、差別などから守られること <input type="checkbox"/> 【参加する権利】 自分の気持ちや意見を伝え、大人に聞いてもらえること <input type="checkbox"/> 守られていないと感じるものはない <input type="checkbox"/> よくわからない
問7	どんな場面で「こどもの権利」が守られていないと感じましたか。 ※書ける人は書いてください	【自由記入】
問8	あなたは悩んでいることや困っていることがありますか。 ※あてはまるものすべてを選んでください。	<input type="checkbox"/> 勉強や成績のこと <input type="checkbox"/> 友達のこと <input type="checkbox"/> 将来（進路）のこと <input type="checkbox"/> 家族のこと <input type="checkbox"/> 自分の性格のこと <input type="checkbox"/> 自分の体のこと <input type="checkbox"/> いじめのこと <input type="checkbox"/> 大人からの暴力（虐待）のこと <input type="checkbox"/> お金のこと <input type="checkbox"/> インターネット、SNSのこと <input type="checkbox"/> 悩みはない <input type="checkbox"/> その他（ ）
問9	その悩みを相談できる人は誰ですか。 ※あてはまるものすべてを選んでください。	<input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 友達 <input type="checkbox"/> 先生 <input type="checkbox"/> 近所（地域）の大人 <input type="checkbox"/> 相談できる人はいない <input type="checkbox"/> その他（ ）

3. 「こどもの居場所」についてあなたの考えをおたずねします。

設 問		選択肢
問10	あなたは放課後や学校が休みの日に、どこで過ごすことが多いですか。 ※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。	<input type="checkbox"/> 学校（部活、自習など） <input type="checkbox"/> 家（普段寝起きしている場所） <input type="checkbox"/> 祖父母・親戚の家 <input type="checkbox"/> 友達の家 <input type="checkbox"/> アルバイト先 <input type="checkbox"/> 習いごと（スポーツ、塾など） <input type="checkbox"/> 図書館や公民館などの公共施設 <input type="checkbox"/> お店（ショッピングセンター、ファストフード店など） <input type="checkbox"/> 地域の人が開いている居場所（フリースペース、子ども食堂など） <input type="checkbox"/> その他（ ）
問11	あなたは家（普段寝起きしている場所）や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がほしいですか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> よくわからない
問12	問11で「はい」と答えた人におたずねします。 あなたは家（普段寝起きしている場所）や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がありますか。	<input type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> よくわからない
問13	問12で「ある」と答えた人におたずねします。 それはどこですか。 ※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。	<input type="checkbox"/> 祖父母・親戚の家 <input type="checkbox"/> 友達の家 <input type="checkbox"/> アルバイト先 <input type="checkbox"/> 習いごと（スポーツ、塾など） <input type="checkbox"/> 図書館や公民館などの公共施設 <input type="checkbox"/> お店（ショッピングセンター、ファストフード店など） <input type="checkbox"/> 地域の人が開いている居場所（フリースペースなど） <input type="checkbox"/> その他（ ）
問14	問11で「はい」と答えた人におたずねします。 あなたが「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所はどんな場所ですか。 ※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。	<input type="checkbox"/> いつでも行きたいときに行ける <input type="checkbox"/> 一人で過ごせたり、何もせずのんびりできる <input type="checkbox"/> 友達と一緒に過ごせる <input type="checkbox"/> ありのままでいられる、自分を否定されない <input type="checkbox"/> 好きなことをして自由にすごせる <input type="checkbox"/> 自分の意見や希望を受け入れてもらえる <input type="checkbox"/> 新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる <input type="checkbox"/> 悩みごとの相談にのってもらったり、安心して話ができる大人がいる <input type="checkbox"/> その他（ ）
問15	京丹後市に「もっとこんな場所があればいいのに」と思うことがあれば教えてください。	【自由記入】

[こどもまんなか アイデアシート]

01 まちや暮らしの中で自分（家族）が「こまっていること」、「もっとこうなったらいいのに」と思うことはありますか？

02 あなたが市長になったら、その問題を解決するためにどんなことをしますか？（しくみ・ルール・場所（建物）をつくる など）



こどもまんなかアイデアシート

学校・学年	●●中学校 ●年
氏名	

01 自分が住んでいるまちの「好きなところ（魅力・強み）」や、「嫌なところ（課題・弱み）」をあげてみましょう。

<京丹後市全体で>

【好きなところ（魅力・強み）】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

【嫌なところ（課題・弱み）】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

<校区の範囲で>

【好きなところ（魅力・強み）】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

【嫌なところ（課題・弱み）】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

02 あなたが市長になったら、「こどもが幸せに暮らすために」「まちをより良くするために」どんなことをしますか？（しくみ・ルール・場所（機能・施設）をつくる など）

★ 好きなところをどう伸ばすか、どう活かすか、嫌なところはどう直すかという視点で考えてみよう！

- ・
- ・
- ・
- ・

わたしたちが子育てしたいまち

01

これまで生活していて感じた「今のこどもの生活や子育て環境」について思う「いいね！！」と「いまいち…」をあげてみましょう

いいね！！

いまいち…

02

わたしたちが子育てしたい理想のまちのキャッチコピー

03

理想のまちを実現するために、あなたが市長なら何をする？